

農地や人里・市街地に出没するヒグマの生息実態把握

農食環境学群 / 環境共生学類 / 野生動物生態学研究室

佐藤 喜和

[Yoshikazu Sato] 教授 [博士(農学)]



● 研究の概要

ヒグマによる農地、人里、市街地への出没を抑制するため、周辺の森林内における生息実態を明らかにし、有効な対策を提案する。

● 研究の内容・特徴

本研究は、近年人間の生活圏内への出没が増加しているヒグマについて、被害の未然防除を効果的に実施することを目的に、ヒグマの行動習性を利用したモニタリングを行い、地域の実情に合わせた対策を提案する。森林内に単独で暮らしその生息実態の把握が困難であるが、我々の研究グループが開発したヒグマの行動習性を応用した背擦りトラップとカメラトラップの併用法により、誘引餌を使わずに体毛試料と映像資料を取得できる。これらを基にDNA鑑定・画像解析することで生息するヒグマの個体識別と性齢クラスの確認、利用時期を推定する。これらの基礎情報をもとに未然防除対策を実施することで、従来多く行われてきた有害駆除のような事後対策だけでなく、根本的に出没個体数を減らす対策を実施できる。



● 用途・応用例

- ・駆除を続けているのに出没が止まらない
- ・これまで出没がなかった地域に出没するようになった
- ・出没する時期が年々早くなっている
- ・なぜ出没するのか理由が知りたい
- ・
- ・

● アピールポイント

ヒグマの出没に悩まされている地域、従来の駆除だけの対応では問題は解決しないとお考えの地域がありましたら、ぜひご連絡ください。ヒグマの目線になって出没原因を考え、どのような対策が有効かを検討します。

● 本研究に関連する知的財産

発明の名称：

特許番号：

● 研究室のホームページ